

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地
 東教発 R 3. 3. 1 No.166
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

つながりのある職員集団づくり ~メンターチーム研修を活用して~

鳥取市立日進小学校



日進小学校では、本年度、令和2年度版鳥取メンター方式による初任者研修を実施しています。その中で、メンターチームの教員が自ら課題を見つけ自主的な研修に進化させ、また、校内研究との連動により他の教職員や教育活動全体に好影響を与えています。このように、若い教員が力を伸ばし、メンターチームが学校の推進力となっています。

令和2年度版 鳥取メンター方式とは

教職員構成の変化を見据え、持続可能な校内人材育成システム構築を意図して導入した初任者研修の新たな方式です。従来方式と同様の校内研修に加えてメンターチーム研修を取り入れることにより、初任者の育成と同時にメンターの資質向上を図ります。

研修の様子

自主授業研究会



「算数科の授業づくりについてもっと学びたい。」という思いから、校内授業研究会

とは別に、授業づくり・授業公開・振り返りを行う自主授業研究会を実施した。さらに、研究会で深めた「図を使った指導」や「分数」の系統的な学びについて職員研修で他の教職員に発信した。

メンターチーム研修からの発信により校内研修を後押し

得意分野を生かした研修

メンターチームのメンバーが、それぞれが得意なことを生かし、講師になって研修を企画・運営している（iPadの効果的な活用やボール運動の研修など）。指導方法を学ぶだけでなく、初任者・メンターチームの仲間づくりにもつながっている。



研修内容は、初任者・メンターチームの思いを踏まえて計画。



他の教職員



初任者・メンターチームの姿から、私たちも刺激を受けています。

初任者 研修をきっかけにして仲が深まり、どんなことでも相談できます。日常的にも声をかけてもらい、大変心強いです。

メンターチーム

- ・教諭(8年目) リーダー
- ・教諭(6年目)
- ・教諭(5年目)
- ・教諭(3年目)
- ・教諭(2年目)

他学年を含めた幅広い視野で考えられるようになりました。校内研究についても、メンターチーム研修の中で、相談できます。(リーダー)

月1回の研修は、委員会・クラブの時間に設定。研修コーディネーター・研修指導員がさらに内容を深め、学校体制で支えている。

集合研修が難しい中、初任者にとってメンターチームの存在は、学習指導や生徒指導の充実のみならず、精神面においても大きな支えであったと思われます。メンターチームと初任者、若手とベテランのつながりのある職員集団は、初任者を含めた若手教員育成やリーダー育成といったOJT（仕事の中で育成を図ること）の推進につながります。

子どもたちの将来のために

局長 長谷川 隆

昨年、企業経営者の方々と学校や教育委員会とが意見交換をする会に参加しました。その中で「企業はどんな人材を求めているか」というような話題になりました。いろいろな意見があった中で、私が印象に残った経営者の方のお話は次のようなものでした。

「会社にはいろいろなタイプの人材が必要です。発想豊かにいろいろなアイデアを出す人、コミュニケーション力がありプレゼン力が高い人、こつこつ丁寧に注文通り製品を仕上げる人、計算などが速く正確で事務作業に間違いがない人など。みんなが同じだったら会社は成り立たないと思う。」どの職場でも同じかもしれませんが、職場の中でいろいろなタイプの人たちが、それぞれの持ち味を生かしながら活躍されていることに改めて気づかされたところです。

このことは、先ごろ中央教育審議会が答申した「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の方向性にも通じるものがあるように思います。答申では、子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」や「協働的な学び」の推進が提言されています。そして少子化と共にいろいろな意味でダイバーシティが進む社会で、子どもたちがかけがえのない社会の一員として、また持続可能な社会の創り手となるための教育活動の推進が期待されています。

子どもたちには大きな可能性があります。だからこそ各学校では、子どもたちの将来を見据え、つけたい力を考え教育活動を行っています。ただ社会は急激に変化し、予測困難な時代が来ています。子どもたちの将来のためには、それぞれの強みを生かすことや友だちと課題を乗り越えていくような経験が、これまで以上に必要になってくると思います。このコロナ禍が、改めてつけたい力を考え、そのための教育活動を見直していくよい機会になったと考えたいものです。

学力向上を支える「家庭学習の質の向上」

～ 家庭学習の質向上推進事業 ～

東部地区5市町の5中学校区が、平成30年度からの3年間、めざす児童生徒の姿の実現に向け、市町教育委員会、学校、家庭が連携した実践研究を推進してきました。12月4日に、東部地区の小中学校、義務教育学校が参加し、事業実施校の成果報告や東部地区各校の取組をもとに、各校の課題解決に向けた熱心な協議が行われました。また、2月10日には、事業実施校により、今後の取組の継続、発展に向けた協議を行いました。



家庭学習の質向上研修会「成果報告」

事業実施中学校区の「主な取組の成果」と「取組の継続・発展に向けた計画」

鳥取市「青谷中学校区」

自主学習や予習をきっかけに、授業に進んで喜んで向かう子どもを育てたい。

授業と家庭学習との連動

予習に取り組む児童生徒が増加した。学習理解が深まり、学習意欲の向上につながった。予習の取組により、授業に新たな活動時間が生まれた。

＜取組の継続・発展に向けて＞

予習課題や自主学習を継続。復習したくなる発展問題、家庭学習の習慣が定着しない児童生徒への対応などを小中連携で工夫する。

岩美町「岩美中学校区」

自ら学び続ける子ども、自分に必要な学習が見つかる子どもを育てたい。

家庭学習の習慣づくり

目標を決め計画的に家庭学習に取り組む児童生徒が増えた。自分で計画し、めあてと振り返りを行うことで、主体的に自主学習に取り組むことができた。

＜取組の継続・発展に向けて＞

保護者啓発を継続し、家庭学習の環境を整えていく。個別対応も行い、自分に合った内容を見つけられるようにしていく。

八頭町「八頭中学校区」

夢や目標に向けて、授業と家庭学習とをつなげながら、自ら計画を立てて取り組ませたい。

8のつく日に活用問題の実施

全校を挙げた定期的な実施で、活用問題への力が徐々についてきた。児童の取組状況が把握でき、教師と児童が共通の意識のもと指導や取組ができた。

＜取組の継続・発展に向けて＞

5校が定期的な会議で連携。保護者を巻き込みながら各取組を継続。授業との連動を図り、より計画的な取組を推進する。

若桜町「若桜学園中学校区」

進んで学習に取り組み、基礎学力をしっかりと身につけた子どもを育てたい。

eラーニング教材の活用

個々に合った多様な問題に取り組ませることができた。家庭学習の習慣が徐々に身につく、学習意欲が向上。個々の学習記録を指導に役立てることができた。

＜取組の継続・発展に向けて＞

進んで学習に取り組む力の育成を継続。記述式の問題の充実など、より効果的なeラーニング教材の活用を進める。

智頭町「智頭中学校区」

時間や内容を意識して自らの学びを計画し、振り返って学び続ける子どもを育てたい。

家庭学習の実地指導

家庭学習の習慣が身につくようになった。教師は、児童生徒個々の取組状況を把握し、学年に応じた適切な家庭学習の量や内容を捉え指導に役立てることができた。

＜取組の継続・発展に向けて＞

実地指導、授業との連動等を継続。メディアコントロールと自分で進化させる自学メニューで学びの「自律と自立」を図る。

事業実施校の取組の成果

◆家庭学習と連動した学びの定着に取り組めたか
(学校教育実施状況調査より)

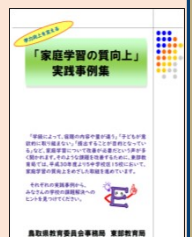
事業実施校	H29	H30	R1	R2
(%)	53	73	100	100

◆家で自分で計画を立てて勉強をしている ※R2は参考値
(全国学力・学習状況調査より)

事業実施校	H30	R1	R2
6年 (%)	70.6	73.9	74.9

家庭学習の質向上実践事例集

他にも様々な実践に取り組んでいます。実践事例集をぜひご覧ください。東部教育局HP、鳥取県学校教育支援サイトに掲載しています。



児童生徒が自ら学習を計画し、工夫しながら進めるといった「主体的に学習に取り組む態度」は、学校での授業と家庭学習とが連動し、学びがつながることで効果的に育成されます。

授業改善とともに家庭学習の充実に向けた取組が、東部地区全体に広がっています。今後も、各校や各中学校区の実態に応じた家庭学習の充実が図られることを期待しています。

特別支援教育コーナー

特別な支援を必要とする幼児児童生徒の引継ぎ

年度末は、個別の教育支援計画や個別の指導計画等の評価・見直しを行い、学習活動や教育課程全体の改善につなげる大切な時期です。園・校内の教職員や保護者、関係機関等と1年間の成長や指導・支援の状況を振り返るとともに、年度末、年度初めに行う業務内容等の確認を行い、切れ目ない「のりしろ」のある引継ぎができるよう準備を進めましょう。

自立・社会参加に向けた「のりしろ」のある引継ぎの充実

＜一人一人の教育的ニーズを把握し、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行います＞



各移行期における引継ぎの重点ポイント

幼稚園等から小学校へ
・教科の学習が始まるなど環境が大きく変わります。教室の様子や1日の流れ等入学後の生活について情報を共有し、具体的な姿をイメージしながら引き継ぎます。

小学校から中学校へ
・教科担任制になることから、配慮事項や学習活動における困難さの状態、支援等を整理して引き継ぐとともに、職員間で共有することが大切です。

中学校から高等学校等へ
・保護者と本人の学習や生活等の状況を共有しながら支援の必要性を確認し、保護者の理解と協力を得て、個別の教育支援計画等の確実な引継ぎを行います。

進級時には

- ・個人ファイルを作成し、資料等を整理して綴りましょう。
- ・引き継ぐ内容とともに、「いつ」「だれと」「何を」「どのように」を確認しながら準備を進めましょう。

保護者の思いを受け止め、寄り添う姿勢で

◇1年間の成長や課題が確実に引き継がれるのか、保護者は不安を感じています。日頃から保護者の思いに耳を傾け、「見守ってくれる先生がいるから大丈夫。」と思える関係づくりに心がけましょう。



「配慮事項」や「支援のコツ」を引き継ぐ

◇座席の位置等の配慮や関わり方の工夫、支援のコツ等を引き継ぐことも大切です。
※中学校から高等学校への引継ぎについては、県教育委員会高等学校課が作成したリーフレットをご覧ください。(高等学校課HPに掲載)



個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用

個別の教育支援計画等は個に応じた教育を展開していくための設計図です。作成の対象や目指す姿、評価・見直しの方法や時期等を校内委員会等で確認し、組織的・継続的かつ計画的に作成・活用していきましょう。

個別の教育支援計画

園・学校生活だけでなく、家庭生活や地域での生活も含め、幼児期から学校卒業後までの切れ目ない支援を行うため、家庭や関係機関等と連携し、様々な側面からの取組を計画したツール。

＜チェックしてみましょう＞

- 保護者、関係機関等と情報交換しながら、本人の状況や本人・保護者のニーズ、園・学校や関係機関等の支援について加筆・修正していますか。
- 記載内容について、必ず保護者に確認してもらっていますか。
- 個人情報が含まれます。関係機関等との情報共有に当たって、事前に本人・保護者の同意を得ていますか。

評価・見直しのポイント

個別の指導計画

園・学校生活全般の具体的な指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画。特別支援学級在籍児童生徒は、各教科等における指導の目標や内容等を明確にし、教育課程等を具体化するためのツール。

＜チェックしてみましょう＞

- 目標に対する幼児児童生徒の変容を評価するだけでなく指導者の支援(活動内容や活動量、支援は適切だったか等)も評価していますか。
- 校内の教職員で評価・見直しを行うなどし、次年度に向けた共通理解ができていますか。



懇談時等に個別の指導計画を保護者と共有しておくことで、家庭との連携がスムーズに行えます。

「特別支援教育の手引」の活用



◇「担任の1年」(P40～)では、年度末・年度初めに行う引継ぎ準備等をチェックしながら確認できます。

④関係機関等との連携の準備(注1)	
【学級継ぎ】	
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備
<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備	<input type="checkbox"/> 学年継ぎの準備

◇「校内支援体制」(P16～)では、支援会議について確認ができます。保護者、関係者で情報を収集・共有して、支援の目標や内容、役割分担等を確認することが大切です。

◇「個別の教育支援計画と個別の指導計画」(P7～)では、Q&Aで引継ぎ時のポイント等が確認できます。

◇「様式例」(P60～)では、個別の教育支援計画等の取扱いや記載の注意事項、記載例等を確認できます。

「手引」は、特別支援教育課HPよりダウンロードできます!



切れ目ない「のりしろ」のある引継ぎを行うためには、全ての教職員の理解と協力のもと組織的な取組が必要です。通常の学級や特別支援学級、通級による指導、交流及び共同学習などそれぞれの学びの場で、幼児児童生徒が安心して学び、自立・社会参加に向けてもてる力を発揮できるよう、特別支援教育の園・校内支援体制の機能充実を図り、確実な引継ぎを行いましょ。

ふるさとキャリア教育モデル事業 八頭町の取組

今年度より、八頭町内の6校（郡家東小・郡家西小・船岡小・八東小・八頭中・八頭高）が「ふるさとキャリア教育モデル事業」実施校として取り組んでいます。自分らしい生き方の実現、主体的に課題解決に向かう意欲や態度の育成、鳥取県への誇りや愛着、将来にわたりふるさとを思い鳥取を支える力をつけること等を目的に、小・中・高等学校の連携を進めています。今年度の八頭町の取組を紹介します。

八頭町ふるさとキャリア教育連絡協議会

小・中・高等学校の担当者が集まり、情報交換や協議を通じて八頭町内の小・中・高等学校が連携し、キャリア・パスポートを活用して効果的に学校間をつなぎ、ふるさとキャリア教育の充実を図る取組を進めています。



アンケートの結果分析やキャリア・パスポートの活用状況、構成表についての話し合い等を行っています。



八頭町道徳教材集の活用

小学校4～6年、中学校3年で教材集を活用し、先人の生き方や知恵を学ぶことで自分を見つめ、自分の生き方について考えを深められるような授業づくり、実践を進めています。船岡小5年生では、事前に行った作品鑑賞を授業につなげるといった工夫も見られました。また、取り組んできた授業の足跡は、「道徳人物コーナー」等の掲示物に残されています。



- 【小学校】
- 4年：この村に水を
～安藤伊右衛門～
- 5年：努力は一生かけての体験
～橋本 興家～
- 6年：星への情熱
～本田 貴～
- 【中学校】
- 3年：政治家は貧しく
国民は豊かに
～古井 喜實～

キャリア・パスポート 構成表

	6ページ	6ページ	7ページ	8ページ
小1	学級活動(3) 9年生になって(年)	行事 運動会(人)(自)	学級活動(3) いろいろな言葉(年)	道徳 みんなにむかって(年)
小2	学級活動(3) 9年生になって(年)	学級活動(3) ぶがたろうと大伴(年)	行事 運動会(年)	生活科 わたしの家は(年)
小3	学級活動(3) 9年生になって(年)	行事 運動会(人)(自)	総合 国語と社会(人)(自)	学級活動(3) ずんずん成長しよう(年)
小4	学級活動(3) 9年生になって(年)	学級活動(3) はじめての委員会活動(年)	行事 運動会(人)(自)	道徳 この村に水を(安藤伊右衛門)
小5	学級活動(3) 9年生になって(年)	行事 運動会(年)	学級活動(3) 自分にとって大切なこと(年)	道徳 努力は一生かけての体験(橋本興家)
小6	学級活動(3) 9年生になって(年)	行事 運動会(年)	総合 プレゼンテーション交流(年)	道徳 星への情熱(本田貴)
中1	学級活動(3) 中学生になって(年)	行事 宿泊研修(人)(自)	学活(3) 1学期を振り返ろう(年)	学活(2) 文化祭を振り返ろう(人)(自)
中2	学級活動(3) 2年生になって(年)	行事 マナー講座(総合)(人)(自)	学活(3) 1学期を振り返ろう(年)	学活(2) 運動会を振り返ろう(人)(自)
中3	学級活動(3) 3年生になって(年)	行事 修学旅行(人)	学活(3) 1学期を振り返ろう(年)	学活(2) 文化祭を振り返ろう(人)(自)
高1				学活(3) 2学期を振り返ろう(年)



橋本興家の作品鑑賞と学芸員による解説



道徳人物コーナー



授業の様子

小・中・高等学校12年間のつながりを意識したキャリア・パスポート構成表の作成にも取り組んでいます。



八頭中学校「地域の起業家に学ぶ」

「これから生きるために」という演題で、八頭町出身の起業家のお話を聴きました。熱い思いをもった企業家から学ぶことで、「ふるさと八頭」に誇りをもち、卒業後どの地で生活していようと、八頭町を大切に思う気持ちを忘れない人材の育成が期待できます。

生徒はそれぞれの教室で起業家のお話を視聴しました。



【生徒の感想より】
◇地元である鳥取のために何かできるようにしたいし、それに向けて必要なことをしていきたいと思いました。
◇育ててもらった鳥取、八頭町には何もないと思わず、誇りに思うことが大事だと知りました。そして、それを知った上で八頭町に何ができるか、どうやって恩を返そうかを考えることも大事だと知ることができました。
◇これからたくさんを経験し、好きなことを自分の仕事にしたいとみんなの顔を笑顔にしたいと思いました。今日のお話を聞いて改めて考え方が広がりましたよかったです。

今年度は、連絡協議会で情報交換・共有等を行いながらも、各校独自の実践に留まったという反省もありました。小学校から中学校へ、中学校から高等学校へとキャリア・パスポートが引き継がれる来年度は、小・中・高等学校の連携やつながりに関する取組、実践が出てくるのが期待されます。また、ふるさとキャリア教育を通して培われた八頭町内のつながりは、他教科・他領域、児童生徒はもちろん教職員どうしの交流等、今後幅広く発展していくのではないかと、楽しみが膨らみます。